

令和3年度第2回 北杜市ほくと子ども育成戦略会議 議事録（要旨）

1. 会議名 令和3年度第2回 北杜市ほくと子ども育成戦略会議

2. 開催日時 令和3年7月27日（火） 午後3時から午後5時

3. 開催場所 北杜市役所 北館3階大会議室

4. 出席者

(1) 北杜市ほくと子ども育成戦略会議委員

安達義通委員、天野さやか委員、飯田久美子委員、江間照夫委員、岡安祐樹委員、小林佳恵委員、佐藤文昭委員、玉山桃子委員、名取政義委員、呑田真人委員、三澤裕美委員、溝口奈緒美委員、宮崎亮子委員、矢崎香織委員、矢崎茂男委員、矢崎憲恒委員、吉田百加利委員

欠席者 栗原正明委員、白倉繁委員

(2) 北杜市

政策秘書部長、企画課長、ほくとっこ元気課長、子育て応援課長、教育総務課長、学校給食課長 政策推進課長、政策推進課計画推進担当

5. 会議次第

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 議事

- ・前回会議の質問と回答
- ・課題の抽出と意見交換
- ・その他

(4) 閉会

6. 公開・非公開の別 公開

7. 傍聴人の数 4人

8. 審議内容

○北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づく会議の公開、非公開の確認。

○公開はどの範囲で、何を公開するのか質問。

→議事録を作成し、ホームページ上で公開する。

### (3) 議事

○会議録署名委員を指名。

#### ・前回会議の質問と回答

○担当課及び事務局より空き家バンク実施状況、森林面積、コミュニティースクール、学校給食における使用小麦、今後の会議スケジュールについて説明

○学校給食に使用している小麦の産地の国内外割合について質問。

→全体の5%が北杜市産、95%はアメリカとカナダ産。

○残留農薬等々は、気にされている父兄がいる。国内産の割合について質問。

→市内約3千食の食材について、公益財団法人山梨県学校給食会から購入している。輸入食材は、検疫所で検査を受けており、問題はないと考えている。小麦については、本年5月から国内産配合率を5%から10%へ変更していく。

○日本の基準が、一番緩いと言われている。外国で禁止となったものも日本に入ってきているという情報もある。子供たちの成長の過程で重要なこと。移住する際の判断の一つにもなる。

○委員長、副委員長を男女で分けることについての検討結果について質問。

→委員長、副委員長の選出については、前回の会議にて承認されたので変更はない。

○承諾と言われても何もわからなくて、勝手に決まってしまった。子育てされている女性の意見が反映された方が移住促進のプランが出てくるので、提案した。検討しますとの回答だったので、変更していただけたらと思った。質問したらもう承諾されたと言われたので、驚いている。はいと答えられなくても承諾だと捉えられると困る。その辺が市民の声として聞いていただきたい。

→前回の会議において、委員長、副委員長の選出を諮ったときには、意見がなかったので、了解されたものとして会議を進めた。今後検討すると回答したのは、今後、会議体や委員会等を立ち上げる際、選考のあり方の一つとして考慮するという趣旨。

○前回、検討するという回答のため、委員長、副委員長も男女での検討だと思っていた。傍聴に参加されていた方も子育てを検討する会議なので良いことだという意見を聞いた。もちろん職として受けていただいた委員長、副委員長には感謝しかないが、承諾を得ているという点については、私たちはわからないままで、驚いている。

○ジェンダーフリーについては、例えば、組織の委員長、副委員長を決めるときに男女のバランスということもあるが、それ以前にやりたい人、出来る人が性別に関係なく何の障害もなく手を挙げられることではないか。本会の性格からして、男女の数ということも適切だとは思いますが、そこにこだわる必要はないと前回も感じた。会議を進めていただきたい。

○まだまだ日本は男性社会で、女性の意見が通りにくいというのが土台にある。委員長、副委員長が男性となると女性の意見が通りにくく、正確に受け取っていただけないと思う。そのため、どちらかを女性にと提案した。意見を聞くときは必ず一番立場の弱い人や一番意見が言いにくい人の目線に合わせて、その意見を拾うという仕組みを作らないと立場

の強い人たちがばかりの意見になる。この場には障がい者も外国人もいないので、もっと多様なメンバーの会にしたらどうかと思う。このことで議論するつもりはない。

○委員長、副委員長について、性別についてはどちらでも構わない。強い意向、立候補する方がいれば、議論すればよいが、この話が長引くと本題に入れない。

→様々なご意見をいただいたが、この会議については、このまま進行する。今後、様々な会議を作っていく際、意見を参考にする。

○委員には女性も多く、若い方も多いので、意見は反映されやすいし、それができる委員だと思う。形式的にこだわり過ぎている意見に聞こえてしまう。納得いかなければ、女性が一人増えても、副委員長が1人増えても要綱上問題なければ、立候補されても構わない。

○形式に拘ってはいない。

○男性主体では、そういう目線になるため、女性を入れた方が良い。

○事務局が、検討しますと回答したので、そういう検討だと思った。答えが聞きたかっただけ。承諾という意味では前回承諾したとは思っていない。

○特に女性の意見は反映したいと思っている。

○前回会議で、アンケートの実施について委員から提案があった。事務局と相談したが、客観性、公平性、時間的なスケジュール等を考慮すると、この会議において、年内にアンケートを実施するのは難しい。ただし、有志又は個人でアンケートを実施し、委員の意見の一つとしては、参考になる。それでよろしいですか。

○コロナ禍であり、感染の不安があるので、オンライン会議を提案した。また、移住促進を考えているならば、人口を増やすための準備としてオンライン化を提案した。オンラインでアンケートをとれるので、アンケートの骨子案も作って事務局に相談したが、今話があったとおりの回答だった。有志でオンラインアンケートを実施したい。1回の会議において、1人6分しか発言する時間がない。それだと意見が出尽くすとか議論が煮詰まるとか難しいので、SNS等のツールを使って有志で意見交換をしたい。

○アンケートにしてもオンラインの情報交換にしても個人で行うことは構わない。連絡方法については。

○メールアドレスをホワイトボードに書くので、連絡をください。

○本会議には関係なく、有志での情報交換とする。

#### ・意見交換

テーマ別に4グループに分かれ、ワークショップ形式にて、出生率の改善と移住定住者の増加についての「課題の抽出」を行う。以下各グループから発表された意見。

テーマ：出会い・結婚・出産への支援（課題抽出）

○出会いの場が少なく結婚したいができない人がいる。

○経済的に豊かになり、一人でも生活していけるので、恋愛、結婚離れが進んでいる。

○子育て世代は、生活していく上で、経済的に余裕がない。

- 地域、年齢の縛りがあるコミュニティが多く、母親たちの仲間づくりが難しい。
- 経済的、メンタル的な行政のサポートが届いてほしい先までなかなか届いていない。
- 行政支援の広報活動、情報発信方法の見直し、拡充が必要。
- 地域を超えた多様なコミュニティが必要。
- 市のシンボルとなるもの又は中心となる場所がない。
- 人生設計の参考となる身近に憧れを持てるようなモデルが存在しない。

テーマ：若年層の転出抑制（課題抽出）

- 仕事について、技術、専門知識を学んでも、市内では職種が限定されてしまう。
- マーケットのない職種は、職が限られ仕事がない。
- 大学がないため、市外、県外へ転出してしまう。
- 進学のため、市外、県外へ転出しても戻って来られるシステム、支援が必要。
- 公共交通機関が少なく、移動が不便。
- 便利さがなく、都会への憧れから転出してしまう。
- 若者が希望するレジャーがない。

テーマ：働く場の確保・働き方改革（課題抽出）

- 子育て世代の雇用が少ない。母親が働きづらい。
- 学童、保育園の預かり時間の柔軟な対応。
- 起業、就農者への支援が必要。
- 子どもの送迎への手間解消のため公共交通機関（市民バス）の充実。
- 福祉従事者の働きがい、人材不足の解消。
- リモートワークの有効活用と都会からの企業誘致。
- リモートワークによる地方での魅力ある働き方（ライフスタイル）の提案、発信。
- 空き公共施設の有効活用。
- 北杜市の魅力発信の方法。

テーマ：移住・関係人口の増加（課題抽出）

- 自然を守る対策が乏しい。
  - シェアオフィス、コワーキングスペースなどリモートワークの場所がない。
  - 移住を検討する際、賃貸物件が少ない。中古不動産が少なく、物件の品質の確保が重要。
  - 情報発信ツール、場が少ない。
  - ママさんたちのコミュニティに関する情報が少ない。
  - 出産できる病院などが少ない。
  - 細部への子育て支援の配慮、拡充が必要。
- 
- 次回はこの課題を解決するための配慮や政策について検討する。
  - 事務局より委員報酬の支払いについて説明。

終了